

ZOWAオリジナルプロジェクト「君が私をダメにする」公開台本

▼使用に関する注意事項

「君が私をダメにする」公式サイト(<https://fun.zowa.app/lp/kimidame/>)に公開されている利用規約を必ず「一読いただき、規約に沿って」利用ください。

第10話 「誕生日のサプライズケーキ、歯を磨いた後に

持ってもらわれて気まずくなるカップル」

【登場人物】

みいたん:26歳、OL

ゆうき:26歳、会社員

同棲2年目

【場面設定】

夜12時、同棲している部屋の個室

みいたん 「よし、そろそろ寝よっかなー」

ゆうき 「あ、俺も寝るわ。じゃあ、電気消すね」

みいたん 「はい」

ゆうき 「おやすみー」

SE 電気を消す音

(少しの間)

ゆうき 「♪ハッピーバースデートゥーユー、ハッピーバースデートゥーユー」

みいたん 「え、えー?」

ゆうき 「♪ハッピーバースデー、ディアみいたくん」

みいたん 「うそー!?」

ゆうき 「♪ハッピーバースデートゥーユー おめでとー!」

みいたん 「えー、ありがとー!」

ゆうき 「じゃあ吹き消してー!」

みいたん 「うんーふー!」

ゆうき 「おめでと〜、みいたん!」

SE 電気をつける音

みいたん 「えー、サプライズ?」

ゆうき 「そっ!ちようど12時!今日はみいたんの誕生日だよ。
一番早くお祝いした〜!」

みいたん 「もう…!」

ゆうき 「じゃ、ケーキ食べようか!」

みいたん 「あ、私歯磨いたからいいや」

(少しの間)

ゆうき 「えっ!」

みいたん 「私歯磨いたからいいや。明日ですわ!」

ゆづき 「あ、ほごびっ」

みいたん 「うん」

(少しの間)

ゆづき 「え、ケーキ食べないって」

みいたん 「いや、食べるよ」

ゆづき 「そっだよねー今切り分けるね」

みいたん 「いや、明日食べるから」

ゆづき 「なにびっ」

みいたん 「歯磨いちゃったし」

ゆづき 「そっか」

みいたん 「うん。そっ」

(少しの間)

ゆづき 「え、今食べるの？」

みいたん 「だから食べるならって言うてるじゃん、っていくな」

ゆづき 「…、怒ってんぞ。」

みいたん 「怒ってのはなごらぬ。お母さまさあ、ごっくにござるか？」

(少々の間)

ゆづき 「え、この場合、怒るのは俺の方じゃない？」

みいたん 「なごらぬ。」

ゆづき 「だって、せうかく準備したのに、喜んでないじゃん」

みいたん 「喜ぶのはお母さま。お母さまは喜んでるぞ。」

ゆづき 「じゃあケーキ食べようよ。」

みいたん 「だから歯磨いちやうしたって」

ゆづき 「じゃあ、さあ、一回磨けばいいじゃん……」

(今この間)

ゆいちゃん 「歯なごしきんー！回曆はごごごごごーん……！」

みいたん 「めーどどどどどごごご。せーんー！回曆なごしきんー！」

ゆいちゃん 「んー、歯なごしきんー！」

みいたん 「めーどどどどどごごご。」

ゆいちゃん 「……、きんー！」

みいたん 「はー。」

ゆいちゃん 「歯なごしきんー、めーどどどどごごご。きんー！」

みいたん 「ごごごごご、私歯はなごしきんー！」

ゆいちゃん 「ごごごごごごごごご。」

みいたん 「せーんー！回曆なごしきんー！」

ゆいちゃん 「きんー！」

みいたん 「なんでそうなの？」

ゆづき 「いや、例えばね、みいたんゲーム好きでしょ」

みいたん 「うん」

ゆづき 「そのゲームもう一回やってみてって言ったらどうなの？」

みいたん 「普通だよ」

ゆづき 「でしょ？ だから、みいたんは好きなのよ？ なら何回でもやるの？」

みいたん 「うん」

ゆづき 「でも、もう一回歯を磨くのは嫌がる。「これは、普段みいたんが

歯をイイイイ磨いてるってことなんだよ。きつたね」

みいたん 「なんでそうなの？ おかこってちゃん」

ゆづき 「おかしくないよ。ちゃんと筋通ってるじゃん」

みいたん 「待って、私歯磨いてるんだよ」

ゆづき 「うん。でもイイイイ磨いてるってことよ」

みいたん 「イヤイヤっていうか、習慣だよ」

ゆうき 「情性ね」

みいたん 「それは言い方じゃね」

ゆうき 「みいたんは、イヤイヤ情性で歯を磨いてるんだね」

みいたん 「…、なんなの？」

ゆうき 「そうやってみると、みいたん、歯あ黄色」

みいたん 「は、なんなんお前？」

ゆうき 「イヤイヤ磨いてるからそうなるんだよ」

みいたん 「ちょっと待って、私なんでそんな言われなきゃいけないの？」

ゆうき 「もう大人なんだから、歯ぐらいいちちゃんと磨きなっ」

(少しの間)

みいたん 「わかった、わかったわ。せっかくサプライズ用意してくれたのに、

私がこんな反応だったから不貞腐れてるのか。」めんね」

ゆうき 「別」…」

みいたん 「いめんいめんすいへん嬉しうよ。あしがとね」

ゆうき 「ムウ…」

みいたん 「もう機嫌直して。いめんね。よこよこ」

ゆうき 「んーん…」

みいたん 「わかった。じゃあちゅーしよ。それで仲直りね」

ゆうき 「わかった…」

みいたん 「お祝いしてへねてあしがとね。ちゅー」

ゆうき 「ちゅー」

みいたん 「えへへ」

ゆうき 「えへへ。じゃあ、ケーキ食べよつか」

みいたん 「いや、だから寝るって」

ゆうき 「はあ！？今完全にケーキ食べる流れだったじゃん！」

みいたん 「どーがー？仲直りして寝るーそれで十分でしょー！」

ゆうき 「いやいや、俺はケーキ食べてほしいんだってー！」

みいたん 「なんでそんな食べさせたいのー？虫歯にさせたいのー？虫歯菌です

か？虫歯菌の権化ですか？ー！」

ゆうき 「違っつてーだからもうー一回歯磨けばいいだけの話じゃんー！」

みいたん 「もうっつるわーいー寝るー……！」

ゆうき 「え、何？機嫌悪いの？」

みいたん 「当たり前だろーあんたが勝手にやったサプライズが失敗して

勝手に不貞腐れて、私に当たって、機嫌良いわけないだろー！」

ゆうき 「みいたんがケーキ食べてくれないからじゃんー！」

みいたん 「深夜にサプライズケーキ持ってくるな！非常識だろー！」

普通食べないってこんな夜中にー！」

ゆうき 「いや、わからないじゃんー！」

みいたん 「つてか、私が齒磨いてるよ」って見てたよね。風呂上がりに」

ゆうき 「うん、見てた」

みいたん 「一緒に、二人で鏡に向かって磨いてたよね？」

ゆうき 「うん、磨いた」

みいたん 「その時どう思ってたの？」

ゆうき 「もう一回磨くかなと思って」

みいたん 「いやおかしいって。イレギュラーがない限り、齒磨きにもう一回とかないから」

ゆうき 「サプライズケーキはイレギュラーじゃないの？」

みいたん 「いや、イレギュラーなんだけど！ちょっと深夜にケーキは重いつて！」

ゆうき 「待って、結局ケーキ食べないのは重いからなの？歯をもっ一回磨くのが面倒だからなの？」

みいたん 「どっちも！」

ゆうき 「えーっどつちもーっ」

みいたん 「深夜にケーキ食べて良い思いする気がしないの！

なんで夜ご飯の時に食べないのっ」

ゆうき 「だってまだ誕生日じゃないから」

みいたん 「じゃあ明日の夜ご飯の時にすれば良いじゃん！」

ゆうき 「それだどー一番にお祝いできないじゃん！」

みいたん 「うーんーなるほどー分かった！お祝いしたい気持ちが本物なのは

わかった！でも、深夜にケーキはなしだよ」

ゆうき 「じゃあどうすればよかったのっ」

みいたん 「普通にプレゼントくれればよかったんじゃない？で、ケーキは明日

の夜とか」

ゆうき 「でも、バースデーサプライズって電気消えて、ロウソクのついたケーキ
が運ばれて来るのが定番じゃん」

みいたん 「確かに。確かに。え、これもしかして、私が間違ってるっっ」

ゆうき 「そうだよーだから、一旦ケーキは食べて、後でもう一回歯磨けばいいんだって」

みいたん 「いやでもそれはめんどくさいよ」

ゆうき 「めんどくさいってなんなのー？別にいいじゃない」

みいたん 「いやー、私にフンモアブラッシングは敷居高いです」

ゆうき 「なんなんその言い方」

みいたん 「あ、わかった。準備してくれたものを私がむげにしたから怒ってるんだよね？」

ゆうき 「そうだよ」

みいたん 「だから、そうだな…。プレゼントって他にあげるの？」

ゆうき 「うん、一応あげるけど」

みいたん 「なるほどね。じゃあ、まずロウソクのついたケーキを持って登場します」

ゆづき 「うん」

みいたん 「ここで定番ハースデーサプライズ成功ね」

ゆづき 「うんうんうん」

みいたん 「で、火消して電気つけて、もう一個その用意してくねてるプレゼン
があれば、そっちは真っ直ぐ受け取れるから」

みいたん 「そっちは真っ直ぐ受け取れるから」

ゆづき 「なるほどね」

みいたん 「したら、ケーキは明日でも良いでしょ」

ゆづき 「うん、確かにープレゼンに喜んでもくれるならいいかもー」

みいたん 「よしーじゃあ、もう一回やってみようー」

ゆづき 「おーけーー電気消すねー」

みいたん 「あ、ちょっと待ってーじゃあ、私ももう寝るねー」

ゆづき 「なるほどね。うん、じゃあおやすみー」

SE 電気を消す音

SE ♪ハッピーバースデートゥーユー、ハッピーバースデートゥーユー

みいたん 「え、えー?」

ゆうき 「♪ハッピーバースデートゥーユー、ハッピーバースデートゥーユー

♪ハッピーバースデー、ディアみいたくん」

みいたん 「うそー!?」

ゆうき 「♪ハッピーバースデートゥーユー おめでとー!」

みいたん 「えー、ありがとー!」

ゆうき 「じゃあ吹き消してー!」

みいたん 「うんーふー!」

ゆうき 「おめでと、みいたん!」

SE 電気をつける音

みいたん 「えー、サプライズ?」

ゆうき 「そうだよー。もうみいたんは歯を磨いちゃったから、ケーキは明日にす
ねー」

みいたん 「うわーうわーうわー」

ゆうき 「じゃ、プレゼントさー」

みいたん 「うわー、ありがとうー！ー！んんん！うわーうわーうわー！ー！」

ゆうき 「開けて開けて！ー」

みいたん 「うんー！」

SE ガサゴソ

みいたん 「え、何これ！？」

ゆうき 「高級入浴剤セットでーす！ー」

みいたん 「うわー！ー」

ゆうき 「みいたん最近疲れ溜まってるから、入浴剤使っていっぱい癒されて
ねー」

みいたん 「うう、ありがとう……！」

ゆうき 「すっごくいい匂いにする入浴剤で、結構高かったんだから！」

みいたん 「わー、めっちゃ嬉しい……！」

ゆうき 「早速使ってみてよー！」

みいたん 「いや、明日にするわ」

ゆうき 「はー」

みいたん 「は？」